

6月は「牛乳月間」！

ステップアップ畜産号外（6月発行）
-R3年度乳質向上対策-

草花が生き生きとし、生命力あふれるこの季節、牛乳、命、自然、働く人々に感謝する月です。
そこで、牛のために、健康チェックや乳房炎予防対策に取り組んでみませんか。

乳質・乳量・経営向上のため検査・技術を活用しましょう

- ◆生乳の乳脂肪におけるデノボ脂肪酸の割合で健康管理！
- ◆分娩前乳房炎検査による治療—乳汁性状の確認とPLテスト—
- ◆家畜熱ストレス予報の活用

◆生乳の乳脂肪におけるデノボ脂肪酸の割合で健康管理！

New topic!



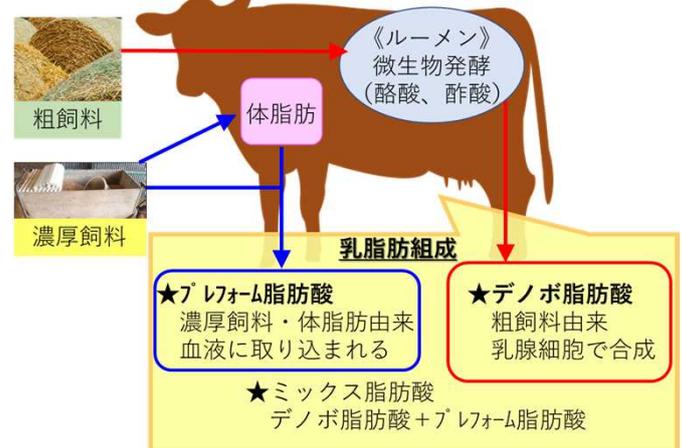
何がわかるの！？どのように活用するの！？

★デノボ脂肪酸はルーメンの動きを示し、その数値は乾物摂取量と連動。
すなわち、健康状態と乾物摂取状況が明らかに！飼養管理の確認に有効！

※北海道酪農検定協会が全国に先駆けてR3年4月から分析サービスを開始しました。

《乳脂肪の生成》

生乳検査において、従来、乳脂肪の量は脂肪酸の組成にかかわらず、「乳脂肪（％）」と扱ってきましたが、近年、**デノボ脂肪酸**（粗飼料由来で乳腺細胞で合成）と、**プレフォーム脂肪酸**（体脂肪や濃厚飼料由来）を区別して測定し、その割合を、飼養管理の中心的な指標として活用するようになってきています。



デノボ脂肪酸の低い牛は
群全体なのか、乳期や暦月で偏るのか？
パターンによって飼養管理の対策を考えます。

※データの活用等は家畜保健衛生所にご相談下さい。

例) 分娩1か月以内でプレフォーム脂肪酸割合が高い牛
→過肥によりルーメンの動きが鈍く、乾物摂取量不足で体脂肪を動員
→泌乳末期から乾乳期の管理見直しが必要！

★バルク乳では、経時的に測定、グラフで変動を確認。デノボ脂肪酸28%、プレフォーム脂肪酸38%のラインから外れていないかチェックし、年間の変動が少なくなる管理でルーメンの恒常性維持を目指します。

【脂肪酸組成の検査が可能な生乳検査所】家畜保健衛生所にお問い合わせ下さい。

◆分娩前乳房炎検査による治療—乳汁性状の確認とPLテスト—



分娩前に乳房炎高リスクの分房を見つけ**新規乳房炎の予防**を徹底しよう！

★泌乳前期に乳房炎の経験のある牛は、
分娩後120日間における**乳房炎発症率が4倍**といわれています。

《実施時期》 分娩予定日の約10日前

《方 法》

1. 乳汁性状の確認

各分房から乳汁を衛生的（※1）にPLテスターシャーレに採取し、
シャーレを傾けて目視で性状を確認

※1 使い捨て手袋着用、採乳前の乳頭口清拭・アルコール綿での消毒、採乳後のディッピングを実施

正常：黄色べっこうあめ状、練乳状

異常：初乳状、牛乳状、水状

※福島県農業総合センター研究報告によると、異常乳の分房の初乳からは
経産牛で45.4%、初産牛で100%乳房炎原因菌が検出されます。

2. 異常と判断した乳汁においてPLテストを実施

乳房炎リスク

小さい：凝集陰性

高 い：凝集陽性、色調が緑色（わずかでも）

3. 「乳房炎リスク高」の乳房については 獣医師の診断のもと**治療**を実施

初乳搾乳制限期間中に
乳房炎の治療を完了させ、
出荷乳量維持と衛生費削減！

乾乳期治療とあわせると、
なお効果的！



◆家畜熱ストレス予報の活用

温湿度指数（Temperature Humidity Index）を用いた正確な評価によるストレス予報を活用し、いち早く暑熱を察知して適切な対策を講じ、夏の暑熱ストレスの影響を少なくしましょう！

★暑熱ストレスの影響：気温1℃上昇で0.85kgの乾物摂取量が低下し、
その結果、乳質・乳量、繁殖成績等の生産性が低下します。

ちくさん天気

検索

ライブストックジャパン合同会社
（北里大学ベンチャー）



詳細な情報、農場の生乳検査成績等についてはお問合せください。

西部家畜保健衛生所 TEL 027-362-2261 担当：環境衛生係